

令和元年度 住民懇談会



市民が市長を囲む形で懇談しました。(若木生活館)

懇談会のやり方

住民懇談会。今回のように市長と直接お話しする形がすごくいいと思う。

去年までのように課長職そろっていて、すぐに回答をもらう形がよかった。



市長

以前は、課長職が会場を取り囲むように座っていたので、**圧迫感**があって話しづらいと言われていました。懇談という性質上、市の側が少人数でお話を伺いたいと思います。

住民懇談会だけでなく町内会の役員会などでも、要望があれば都合のつく限り参加したいと思っていますので、声をかけてください。

商業振興

アンケートで**商業振興**に力を入れるべきとなって期待している。スーパーまでの買い物バスや移動販売車を利用しているが、家の近くに店がない。ゴミ袋一つ買うためにバスに乗るのは大変。



市長

商業は市の関与が難しく、市で店を開くことも厳しいです。移動販売はありがたいですね。でもお店に出かけたいというときもあると思います。商業振興については商工会議所とも連携して取り組みたいと思います。

総合計画

市民アンケートは2000人に送って回収が734人。**回収率が低い**のでは。



市長

10年前の総合計画のアンケートよりも回収率は高かったです。統計学上、赤平の人口規模では400人ほどで民意が反映されているものと見るので、十分な回答を得られていると思います。

総合計画の説明があったが、**抽象的な**内容でざっくりしすぎていないか。



市長

今回説明したのは基本構想になります。具体的なものは基本計画や実施計画でお示ししたいと思います。

総合計画が示す赤平の将来像で「**協働**と**共創**のまち」とある。辞書にも載っていないような言葉でピンとこない。将来像としてふさわしくないのでは。



市長

「**協働**」は同じ目的に向かってみんなが力を合わせる、「**共創**」は多様な立場の人たちと対話しながら新しい価値を「**共**」に「**創る**」という意味です。他の自治体でもつかわれるようになってきた言葉です。わかりづらいということがあるかもしれませんが、認知、浸透するよう努力したいと思います。

開催日	場 所	参加人数
10月28日(月)	東 公 民 館	32人
10月29日(火)	豊里ふるさと会館	19人
10月30日(水)	若 木 生 活 館	18人
10月31日(木)	福栄地区集会所	25人
11月5日(火)	平 岸 コ ミ セ ン	30人
11月6日(水)	文 京 生 活 館	38人
11月7日(木)	交流センターみらい	19人
	計 7 会場	181人

畠山市長就任後、初の住民懇談会が10月28日から11月7日まで、市内7会場で行われました。

昨年までの住民懇談会では課長職が同行し、市民の疑問に答えてきましたが今回からは「広く市民の声をきく」ことを第一として考え、基本的に市長が受け答える形に変更しました。市民が市長を扇形に囲むように座り、対話を重視した住民懇談会となりました。

会場では、皆さんから日ごろ思っている市政への疑問や、地域の要望を伺いました。また、総合計画に対する多くの意見をいただきました。ご参加くださった皆さん、ありがとうございました。

公共交通

公共交通の確保策について、何か考えはあるのか。



市長

赤平にはJR・中央バス・買い物バス・ハイヤー2社と、ある一定の公共交通があります。

他の自治体では**乗り合いタクシー**や**コミュニティバス(巡回バス)**などさまざまな実例がありますが、地域の実情が異なりますので、他で成功していても赤平でうまくいくかはわかりません。大きな費用がかかる事業ですので、慎重に検討していきます。

JRは利用したくても**本数**が少なく使いづらい。平岸駅は快速が停まらない。根室本線の規模で、通過してまで急いで行く必要があるのかと思う。



市長

JRには利用促進として2年間で220万円を支出する予定です。
JRの利用者が少ないといわれますが、停車しないのに利用しようがないということもあると思います。利便性を良くしてもらうよう伝えていきます。

妻が砂川市立病院の産婦人科を利用しているが、**公共交通機関の接続**が悪くて通院が大変。砂川へ行き来するバスを増やしてほしい。



市長

バスの経営を考えると増便は厳しいかと思います。乗る人も減っている状況です。それでも公共交通の事業者には利用しやすいダイヤを組んでほしいとお願いしているところです。

家族が救急車で市立病院に搬送されたときに付き添った。夜中に付き添いの人だけ帰ろうと思ったが、**ハイヤー**が動いていない(**深夜**から早朝までの間で営業をしていない時間帯がある)。せめて1台動かせないものか。



市長

利用者が少ないのでハイヤー事業者が動かしていないということだと思います。市立病院では、深夜に帰りの足がない方には、ハイヤーが動く時間まで病院で休んでいただいています。

地域医療

赤平に**産婦人科**がほしい。里帰り出産をしたい若者はたくさんいる。



副市長

地方には医師がなかなか来てもらえない状況です。特に産婦人科医は大変厳しい状況です。

地域医療の充実というが、あかびら市立病院の現状はどうなっているのか。



副市長

常勤医は8名です。平日夜間の救急も常勤医にお願いしていますが、週末などは札幌方面からの出張医で対応しています。
北海道では今後の人口減少や高齢化をふまえた地域医療構想を策定していて、中空知圏域においてもこれに基づいて病床数などの検討をしています。
患者数が減ってはいますが、ここ数年、経常収支は**黒字で推移**しています。